



曾地建第118号
平成20年10月24日

国土交通省道路局長 殿

曾爾村長 岡田 泰昌



今後の道路行政についての意見・提案について

標題の件について、別紙の通り提出いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

様式①

奈良県 曽 爾 村

- 住民が「安心して安全」に通行できる道づくり
- 自然に優しく、環境・景観に配慮し、観光客等が再訪できる道路行政

○ 現状

本村は、奈良県の東北端に位置し、三重県名張市、津市(旧美杉村)、宇陀市及び東吉野村に接し、室生火山群に属する古光山、住塚山、俱留尊山などに囲まれた美しい火山地形からなっている谷間盆地である。総面積は、4,784haであり、その86%を森林が占めている。標高は、350m～1,037mに位置しており、村の中央を流れる青蓮寺川に沿って9つの集落が散在している。本村における交通網は、宇陀市から通ずる国道369号線、及びこれに連結して村内を縦走する主要地方道名張曾爾線を幹線として住民の経済、生活等、唯一の交通動脈となっている。

国道369号線は、長年の悲願であった梅坂バイパス工事(拡幅及びトンネル)が平成9年度に着工し、平成18年8月に供用開始に至りました。このバイパスの開通により、通行の安心と安全が確保され、地域間の交流が促進され観光客の増加や村民の安らぎなどの一助となっている。

また、主要地方道名張曾爾線については、平成6年度にバイパス工事(一部トンネル化)が着手され、平成16年12月に供用開始し、広域的な交流の促進や生活基盤の更なる向上に繋がっている。

しかしながら、主要地方道名張曾爾線の名張市地内(香落溪)において、去る平成20年7月9日、「落石」が発生し、はなにも大きな事故には至らなかったものの、この区間ではたびたび落石があり、安心して通行できない現状がある。この区間は、現在も全面通行止めとなっており、三重県伊賀地方への通勤・通学並びに通院など住民の日常生活を始め、観光についても本村と共に名張市の観光産業にも大きな影響を受けている。

一般県道赤目掛線は、「主要地方道名張曾爾線」の迂回路として利用しているが、この路線は、急勾配・急カーブに特化した冬季は積雪や凍結により、安全な通行が難しく、幅員が狭小な箇所がある。また、この区間は、急勾配・急カーブの連続した区間であり、迂回路としての役割を果たすことができない。この区間は、安全な通行を確保し、観光客の増加に貢献するため、早急な改善が必要である。

○ 課題

■ 主要地方道名張曾爾線
三重県名張市地内における「落石」は、平成12年8月にも同一箇所でも発生し、また、平成17年並びに平成18年にも別箇所でも落石があり、「通行止め」等となった。本年7月9日の落石により、4ヶ月の通行止めが続いており、早急に「安全・安心」に通行できる道路改良(トンネル化を含む)及び災害防除工事等を実施する必要がある。このことを踏まえ、国及び県(奈良県・三重県)に働きかけなければならない。

■ 一般県道赤目掛線
主要地方道名張曾爾線は、頻りに落石が起る、その度に迂回路となるが、急勾配・急カーブの連続した区間であり、幅員が狭小な箇所がある。この区間は、安全な通行を確保し、観光客の増加に貢献するため、早急な改善が必要である。

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

様式③

奈良県 曾 爾 村

- 現在ある路線の通行の難所（主要地方道名張曾爾線・一般県道赤目掛線）を解消し、維持管理も含め村民が「安心して安全」に通行できる道づくり
- 自然に優しく、環境・景観に配慮し、本村を訪れる観光客等が再訪できる道路行政